

あおぞら

Vol.42
R7.03.19

御成門学園御成門中学校
第9学年 学年通信

🌸今日は卒業式🌸

卒業生代表生徒の答辞では、中学校で培った学びや、支えてくれた人たちへの感謝が丁寧に綴られ、最後には卒業生一人ひとりが未来に向かって歩いていく決意が語られました。

春の温かな日差しに包まれ、新たな旅立ちの季節を感じる今日の佳き日、お世話になった教職員の皆様を始め、ご臨席いただきましたご来賓の皆様、保護者の皆様、そして私たち九年生と共に卒業式に参加している下級生に見守られ、御成門中学校を卒業できることを、卒業生一同、心よりに嬉しく思います。期待と不安を抱きながら、この御成門中学校に入学したあの日から、三年の月日が流れました。振り返れば、次々と課せられる壁への挑戦の日々の連続だったように思えます。私たちはこの三年間、新型コロナウイルスによる、数々の制限が解かれた変革の時期を、まさに肌で感じながら過ごしてきました。行事や環境の新しい在り方に適応するために、学年全体で一つひとつの取り組みに力を注いだ時間は、今ではかけがえのない思い出になったと感じています。

一年生の頃の学年目標は「One for all, All for one」。直訳すると「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という意味ですが、私たちは「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」という解釈で学校生活を送っていました。勉強や部活動、行事など、初めての環境に戸惑いながらも、学年が一丸となって取り組むことができたのは、この学年目標が指し示す“団結の力”を常に意識していたからだと思います。一つひとつの行事、そして日常生活を丁寧に送ることで、一步一步御成門中生の自覚が芽生えてきた時期でした。

二年生になり、中学校生活にも慣れが出てきたころ、再び「One for all, All for one」を学年目標と決めました。これは、一年生の頃から培った団結力をさらに強固なものとし、自らをより高いレベルへと引き上げるといった意味が込められていました。港区での行事では、4年ぶりに復活したオーストラリア、パースでの海外派遣、7年振りに会場が戻ってきた国立競技場での陸上記録会、そして初めての開催されたサントリーホールでの音楽交歓会。限られた準備、練習時間の中で、各々が御成門中学校の代表としての意識を持ち、統率の取れた行動を心がけ、しっかりと目標を共有することで、達成感を得られた素晴らしい経験でした。

最後は九年生。最高学年になって掲げられた目標は「Respect Others」。仲間や下級生、そして自分自身を大切にしながら行動するとともに、周囲を牽引しつつ、さらに高い水準を維持することを目指すものでした。今年度開校した御成門学園御成門中学校最高学年としての、自覚と誇りを強く意識するようになりました。7月には、海外修学旅行第一期生としてシンガポールを訪れる機会に恵まれました。「シンガポールからの生還」をスローガンに事前学習を入念に行い、現地では各々が責任を持って行動し、グローバルな視点を養うことができたと思います。11月には、再び音楽交歓会に参加しまし

た。経験者ゆえの緊張感とプレッシャーからか、一年越しに立ったサントリーホールの舞台から見る景色は、昨年とはまた違うものでした。平和への祈りが込められた合唱曲「大地讃頌」と「信じる」。多くの経験を共有してきた仲間と共に、より洗練された合唱を披露することができました。

2週間前の3月6日、7日には、校外学習で広島市を訪れました。「Peace for all, All for peace」というスローガンを掲げ、三年前にコロナ禍で、広島訪問を実現できなかった先輩方の「学ばなくして平和なし、全力で学び、全力で思い、全力で楽しもう」のスローガンと共に臨みました。被爆地広島に実際に立つことで、大地が発する計り知れないエネルギーと、歴史的事実の悲惨さを全身で感じ取る経験となりました。御年92歳の被爆者の方が、80年前の出来事を、まるで昨日のこのように、苦しそうに話される姿を目の当たりにして、世界では今なお紛争や戦争が絶えず、多くの地で尊い命が脅かされている現実に想いを馳せました。私たちはこの学びをきっかけに、平和の大切さをより深く考え、平和な社会づくりを担っていく責任があることを自覚しました。

御成門中学校での三年間で培った学びや、広がった視野は、何ものにも代えがたい大切な財産です。仲間と力を合わせて取り組んだ日々が、私たちが大きく成長させてくれました。私たちがこうして学校生活を安全に過ごし、成長することができたのは、校長先生を始め、全ての教職員の皆様、また、下級生の存在のおかげです。先生方は私たちが間違った時、熱く叱ってくれました。何気ない日々の中では、気さくに優しく接してくれ、悩んでいる時には相談にのって下さいました。尊敬できる先生方との出会いは一生の宝物です。下級生の皆さんがいたからこそ、私たちは「上級生」としての自覚を持ち、行動することができました。この先の学校生活での様々な出会いや出来事が、皆さんの視野を広げ、仲間との絆を深め、豊かな感性を育ててくれます。互いを支え合いながら、御成門中生としての誇りを胸に、新たな歴史を作ってください。

最後に、一番近くで支え、育ててくれている家族に心から感謝します。自分のことで精いっぱい、時に反抗的な態度や言葉をぶつけてしまい、多くの心配をかけてしまいました。それでもなお、毎日身の回りの世話をしてくれ、進路に関しても一緒に悩み、応援をしてくださいました。

「お父さん、お母さん、ありがとう。」

私たち御成門中学校第五六期卒業生は、今後困難に遭遇することがあっても、冷静に状況を見極め、正しい判断や行動をとれる社会人になれるよう、精進します。たとえ進む方向が違っても、共に過ごした仲間との思い出が私たちの未来を支えてくれます。私たちは伝統ある御成門中学校で育んだ絆と経験を胸に、明日から、それぞれが信じる新たな道を歩み始めます。

結びに、御成門中学校の益々の発展と、御成門中学校がいつまでも私たちの「輝く学び舎」であることを祈念し、答辞といたします。

令和7年3月19日

卒業生代表

卒業おめでとうございます!!

夢と希望を胸に輝かしい門出を迎えた卒業生92名が、それぞれの未来に向かって力強く歩み続け、新しい世界へ羽ばたいていくことを教員一同心より応援しています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます🌸